

論 題 海外の住まいを紹介した絵本を用いた住教育の
授業研究

指導者 葉袋 奈美子 専任講師

学籍番号 23070002

氏名 吉川 知子

1. 研究の背景・目的

家庭科は、自立した生活者を育成する教科であり、家庭生活を豊かにし、子どもたちに生きる力を育てることに大きく寄与している教科である。その中で、住居領域を学ぶ意味は、心身の育成の場として人間形成に深くかかわっていることを認識したい。

しかし、家庭科の中でも衣服や食物などの他領域と比較すると、住居領域の教育は積極的に授業がなされているとはいえない。これは、住居領域の授業において家庭科教師が直面している●住居にかかわる専門的内容の勉強不足●プライバシー侵害への不安●適切な教材教具の不足や授業研究の不足といったバリアが、住居領域を敬遠させているためと思われる。

本研究は、小学校5年生の家庭科・住居領域の授業研究である。教材として海外の住まいを紹介した絵本を用い、世界の多様な住まいを知ることで、関心・認識・意欲を高めることを目標(図1)とした授業方法の効果と検証を行い、家庭科で扱いやすいプログラムの改善と提案を行うことを目的とする。

- | | |
|-----|--|
| ①関心 | 子どもたちの想像力・イメージ形成力・感受性を育み、人(家族)や生活を長期にわたって内包する「住まい」への関心を高めること |
| ②認識 | 様々な気候・風土に合った多様な「住まい」「住まい方」の工夫があることに気づくこと |
| ③意欲 | 快適な「住まい」「住まい方」について考え、実践していこうとする意欲を高めること |

図1 授業目標

2. 研究方法

「海外の住まいを紹介した絵本を用いた住教育」(総合学習)の授業に取り組んでいる小学校が複数校ある。これらの小学校における授業の実態を把握し、授業の中で用いた「ワークシート」と「ふりかえりシート」の児童の記述の分析から、学習効果を確かめる。学習効果は、知識とスキル(A:情報収集力、B:想像力、C:コミュニケーション力)に分類する。

表1 授業の概要

	授業の内容	知識	スキル		
			A	B	C
1	対象住宅の場所や気候について説明	○			○
2	グループ(4~5名)で国別の絵本を参考にして、ワークシートの設問に回答しながら、ある国の住まいの特徴を探る	○	○	○	○
3	調べたこと、その住まいの良さを、その国の人になりきって発表	○		○	○
4	児童同士で質疑応答・指導員からの補足説明	○			○
5	ふりかえりシート記入	○			

3. 住教育・知識の理解度の分析と考察

「ワークシート」の設問別に「ふりかえりシート」のコメントを集計し、各設問の知識の理解度を確認した(図2)。設問を3つ(建物の形状・衛生設備・生活様式)に区分すると、建物の形状(形・場所・材料・窓)に関するコメントが多い。「日本と違うと思ったところ」については、多数の児童が、形や材料の違いから多様性を捉えている。各土地に合った材料を使っていることから、その多様性の背景を認識できた記述も見受けられた。「日本のよいところ」については、窓の存在とその役割について記述した児童が多い。海外の伝統的な家では、窓のない家も一般的であることを知り、あたりまえとしていた窓の存在と光・風・景色等を得られる貴重さを再認識している。衛生設備(水・トイレ・お風呂)に関しても同様に、改めて自分の生活を見つめ直すことにつながっている。

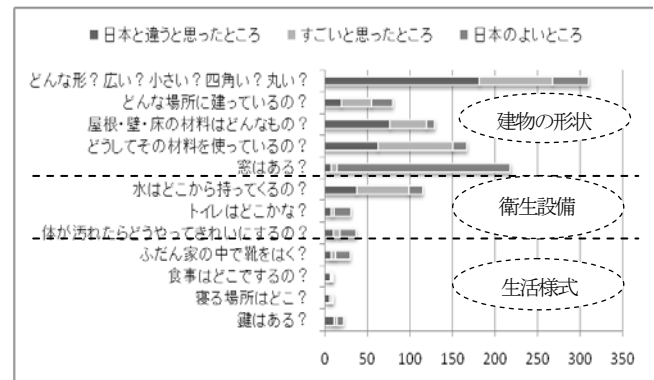


図2 「ワークシート」設問別「ふりかえりシート」のコメント数比較

「すこい!」と思ったところについては、各国特有の住まいの特徴や住まい方の工夫が記述されている。設問以外の「その他」で集計したものが多かった。各国で最も多かったコメントを表2に示す。

表2 「すこいと思ったところ」国ごとの最も多かったコメント(人数)

国名	最も多かったコメント	人数
チュニジア	快適な室温を一年中保てるため、地下に住む	31
モンゴル	家を自分たちで組み立てて、家畜と共に移動する	52
セネガル	雨水をためて飲み水にしている	55
インドネシア	高い屋根には神様が住み、床下には家畜がいる	45
中国	300人が一緒に住んで、助け合っている	18

いずれも、様々な気候・風土に合った多様な「住まい」「住まい方」の工夫があること、環境に応じた文化と「住まい」の関係があることを認識し、すこい!と敬う気持ちを持つことにもつながった。これらは、住まいに対する理解を深めたことを示すものであり、海外の住まいを見ることで、自分の住まいを見つめ直す作業を同時にできている様子が伺われ、住教育の導入として高い効果が得られたといえる。

4. 住教育・スキルの理解度

4.1 ワークシートの設問に対する情報ソースの分析

絵本に描かれた住空間を文と絵(写真)から読み取って、住居の形状をさぐったり、生活の様子を想像したりするというスタイルでグループワークを行う。絵本をじっくり読んで情報を収集したり、想像力を働かせて、グループ内で意見交換を行ったりする必要がある。住まいの特徴をさぐるワークシートの設問に対して、各国とも資料の本文と絵(写真)から7~8割の情報を得ている。その他は、指導員の説明から理解したり、間取り絵等から想像したりして記入している(図3)。設問内容のバランスは良い。資料から「その家に住む家族の構成」「部屋数」等の各国に共通して追加できる設問項目がいくつかあることが分かった。

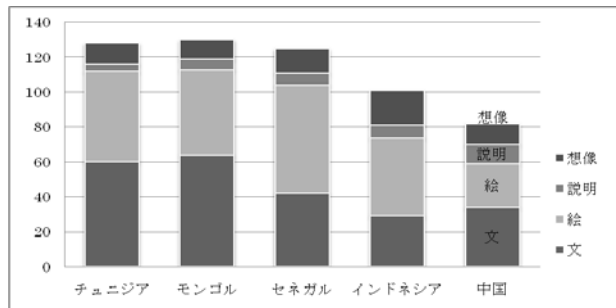


図3 「ワークシート」回答の情報ソース

4.2 質問の意図に反した回答の分析

授業の最後に児童自身が記入する「ふりかえりシート」の回答の中には、質問の意図に反したものも多かった。

質問1. 今住んでいる家と一番違うと思ったところはどこですか？

①どの国? ②どんなところが? ③どうして?

図4 現行の「ふりかえりシート」の質問1

①の回答では、複数の国を回答した児童が約1割いた。

②③の回答内容では、②③の回答の組合せとして、質問の解釈は以下の4つに分類できた(表3)。

表3 質問の解釈のタイプ別分類 (チュニジアの家の例)

タイプ	②どんなところが?	③どうして?
1 36%	家が地下にあること	室温を一定に保つため どうしてその違いがあるのかを記入している。 質問者の意図どおりの回答。
2 28%	場所	家が地下にあること どのように違いがあるのかを記入している。
3 30%	家が地下にあること	ふつうは(日本は)地下には住まないから どうして②の回答を選んだかを記入している。
4 6%	家の形	アリの巣みたいでおもしろい 自分の感想を記入している。

いずれも学習効果を確認することができるが、授業目標②に適合するのはタイプ1である。多様な住まい・住まい方の工夫を「認識」することが、住まいへの「関心」、実践への「意欲」へとつながる大切な一歩であるため、より多くの児童をタイプ1の回答に導けるよう、質問の文章を工夫する必要がある。

5. プログラムの改善と提案

5.1 家庭科を意識したプログラムの提案

「世界の家」発表後、海外には「窓のない家」が多数あることに着目し、日本の家での窓の役割を考える。その役割が、「窓のない家」ではいかに行われているかを探り、明るさ・温度・風通しについて学習し、快適な住まい方の工夫について考える。

5.2 「ワークシート」の改善と提案

国名 私が住んでいる国は です。
場所 私の家は(山奥・高原・草原・海の近く...)に建っています。

図5 改善後の「ワークシート」の一部

●発表しやすい形式の文章(現場の先生方からの要望) ●穴埋め、選択肢、記述式の回答方法をおりませ作業にスムーズに取り組める工夫 ●なりきる作業に楽しく取り組める工夫・「家の自慢の一言!」を考える→グループ同士の競争とし、児童の向上心・創造力を育成 ●指導員用に回答例・参考資料を用意する。

5.3 「ふりかえりシート」の改善と提案

質問1. 日本の家と一番違うと思ったところはどこですか？

①一番違うと思ったのは、どの国ですか？

②どんなところが、どのように違いますか？

③どうしてその違いがあると、あなたは考えますか？

☆今日の授業で感じたことを書きましよう。

図6 改善後の「ふりかえりシート」

●タイプ1の回答に導く文章の工夫 ●授業時間内に記入できるよう、設問を1つにしぼり、遠い異国の住まいについて学んだ児童の意識を、自分(日本)の身近な住まいに引き戻し、自国文化と他国文化との違いを認識することによって、授業の理解度を教師が確かめられること ●感想欄を設けることにより、設問以外にも児童が授業を通して、気づいたこと、考えたこと等を確認できるようにする。

6. まとめ・今後の課題

絵本を用いた住教育の授業については、●住生活への関心が高まった ●海外の家族の生活を自然に受け入れることができ、それぞれの「住まい」の工夫や良さを発見できた ●日本の「住まい」の快適さを認識できた等、教科書を読むだけでは味わう事のできない効果をもたらすことができた。このことは、「研究の背景」で記述した3つのバリアを取り除くための、前向きな姿勢につながったと考える。今後は、より良い授業を実践するために提案した、新しい「ワークシート」と「ふりかえりシート」の学習効果の検証を行うことが課題である。

「住まい」の学習は、住居という器と、人(家族)や生活(衣・食・住)の暮らしを内包するため、家庭科の各領域を分断することなく、有機的に結びつけて学べる可能性に満ちた領域である。

生活への実践力を高めることにつながる、楽しく印象的な授業・教材の研究が望まれる。

◇主な参考文献 「国際理解教育&住教育への手びき」2006年

葉袋奈美子・加藤優子 住教育研究会